

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年2月12日

【四半期会計期間】 第90期第3四半期  
(自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)

【会社名】 フジ日本精糖株式会社

【英訳名】 Fuji Nihon Seito Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 船越 義和

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋茅場町一丁目4番9号

【電話番号】 03 - 3667 - 7811 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部本部長 福田 弘

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋茅場町一丁目4番9号

【電話番号】 03 - 3667 - 7811 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部本部長 福田 弘

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	会計期間	第89期	第90期	第89期
		第3四半期 連結累計期間	第3四半期 連結累計期間	第89期
		自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高	(千円)	14,691,589	15,242,226	19,272,602
経常利益	(千円)	1,076,547	1,056,170	1,146,511
四半期(当期)純利益	(千円)	557,415	654,917	636,536
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	591,513	837,912	837,603
純資産額	(千円)	12,687,749	13,803,128	12,934,117
総資産額	(千円)	18,838,646	19,380,465	18,601,140
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	20.84	24.41	23.80
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	67.3	69.8	69.5

回次	会計期間	第89期	第90期
		第3四半期 連結会計期間	第3四半期 連結会計期間
		自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	3.01	9.29

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、精糖事業のほか、機能性素材事業及び不動産事業を主たる業務として行っております。

当第3四半期連結累計期間における、各セグメントに係る主な事業内容の変更と主要な関係会社の異動は、概ね次のとおりであります。

### (1) 精糖事業

事業内容について重要な変更はなく、また主要な関係会社についても異動はありません。

### (2) 機能性素材事業

#### イ 食品添加物部門

事業内容について重要な変更はなく、また主要な関係会社についても異動はありません。

#### ロ 機能性食品部門

機能性食品素材「イヌリン」の製造販売及び果汁、香料等各種機能性食品素材の仕入販売を行っております。

また、子会社であるユニテックフーズ株式会社において「ペクチン」「ゼラチン」等の天然添加物素材の仕入販売を行っております。

なお、第1四半期連結会計期間において、タイ国にて機能性食品素材「イヌリン」の製造販売を行うことを目的とした合弁会社「Fuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd.」を設立し、新たに子会社といたしました。

#### ハ 切花活力剤部門

事業内容について重要な変更はなく、また主要な関係会社についても異動はありません。

### (3) 不動産事業

事業内容について重要な変更はなく、また主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において新たに発生した事業等のリスクは、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。

（海外事業の展開）

当社は、第1四半期連結会計期間において、タイ国にて機能性食品素材「イヌリン」の製造販売を目的とした合弁会社を設立し、海外での事業展開を始動いたしました。

海外での事業活動は、為替変動リスクに加え、予期せぬ法律や規制の変更、政治や経済の情勢悪化等のカントリーリスクが潜在しており、それらが顕在化した場合、業績に影響を与える可能性があります。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要が下支えするなか、緩やかな回復傾向をたどることが期待されたものの、欧州金融不安や新興国経済の減速などにより、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

このような環境下、当社グループは、製品の安定供給を最重要課題として取り組みました。また、タイ国において、イヌリンを製造販売するための合弁会社を設立し、タイ工場建設などのプロジェクト推進に注力してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高15,242百万円（前年同期比3.7%増）、営業利益974百万円（同0.8%減）、経常利益1,056百万円（同1.9%減）となり、特別損失として投資有価証券償還損5百万円など総額12百万円を計上した結果、四半期純利益は654百万円（同17.5%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 精糖事業

精糖事業の業績は、売上高10,113百万円（前年同期比0.6%増）、営業利益1,066百万円（同2.8%減）となりました。売上高は、販売価格が下落したものの、大手ユーザー向けの販売が順調に推移し、販売数量が前年同期比で増加したことにより増収となりました。損益面では、原料糖の仕入コストは減少したものの、エネルギーコストの上昇もあり、販売価格の下落を吸収しきれず減益となりました。

#### 機能性素材事業

機能性素材事業の業績は、売上高4,674百万円（前年同期比11.8%増）、営業利益50百万円（同110.5%増）となりました。売上高は、機能性食品部門において、イヌリンを主原料とした大手食品ユーザーの脂肪代替商品が引き続き好調に推移したことや連結子会社ユニテックフーズ(株)の主力商品であるゼラチン、ペクチン等の拡販効果により、前年同期比で増収となりました。損益面では、設備投資による減価償却費及び販促活動における費用等が増加したものの、売上増加により前年同期比で増益となりました。

#### 不動産事業

不動産事業の業績は、売上高453百万円（前年同期比1.1%減）、営業利益392百万円（同1.0%減）となりました。小規模賃貸住宅の稼働率低下により、前年同期比で若干ながら減収減益となりましたが、安定収益に貢献いたしました。

### (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ4.2%増加し、19,380百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各財政状態の変動状況は、次のとおりであります。

#### 資産

資産につきましては、流動資産で前連結会計年度末に比べ4.2%増加し、8,549百万円となりました。これは主に現金及び預金の増加等によるものであります。

また、固定資産は前連結会計年度末に比べ4.2%増加し、10,831百万円となりました。これは主に有形固定資産「その他」に含まれる建設仮勘定及び投資有価証券の増加等によるものであります。

#### 負債

負債につきましては、流動負債で前連結会計年度末に比べ1.8%増加し、3,755百万円となりました。これは主に未払法人税等及び「その他」に含まれる未払消費税等の増加等によるものであります。

また、固定負債は前連結会計年度末に比べ7.8%減少し、1,821百万円となりました。これは主に長期借入金及び退職給付引当金の減少等によるものであります。

#### 純資産

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ6.7%増加し、13,803百万円となりました。これは主に四半期純利益計上による利益剰余金の増加、少数株主持分の計上等によるものであります。

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。

### (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費等に係る会計基準による研究開発活動の総額は、32百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社の研究開発活動についての重要な変更はありません。

(5)従業員数

当第3四半期連結累計期間において、連結会社及び提出会社の従業員数に著しい増減はありません。

(6)生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績に著しい変動はありません。

(7)主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい異動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画についての著しい変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	110,000,000
計	110,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	29,748,200	29,748,200	東京証券取引所 市場第2部	単元株式数は1,000株で あります。
計	29,748,200	29,748,200		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年12月31日		29,748,200		1,524,460		2,366,732

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成24年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,862,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,422,000	26,422	
単元未満株式	普通株式 464,200		
発行済株式総数	29,748,200		
総株主の議決権		26,422	

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株(議決権2個)含まれております。

## 【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
フジ日本精糖株式会社	中央区日本橋茅場町 1-4-9	2,862,000		2,862,000	9.62

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,858,033	2,185,754
受取手形及び売掛金	2 1,975,956	2 2,005,924
有価証券	322,069	322,081
商品及び製品	1,595,762	1,528,178
仕掛品	152,386	142,701
原材料及び貯蔵品	1,279,084	954,855
その他	1,021,209	1,412,850
貸倒引当金	2,504	2,922
流動資産合計	8,201,997	8,549,423
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	700,228	700,786
機械装置及び運搬具（純額）	233,151	201,026
土地	2,048,834	2,048,834
その他（純額）	55,376	381,289
有形固定資産合計	3,037,592	3,331,936
無形固定資産		
のれん	901,776	820,784
その他	109,321	100,448
無形固定資産合計	1,011,097	921,233
投資その他の資産		
投資有価証券	4,111,053	4,360,862
関係会社長期貸付金	1,926,200	2,003,952
その他	383,290	283,270
貸倒引当金	70,090	70,213
投資その他の資産合計	6,350,453	6,577,870
固定資産合計	10,399,143	10,831,041
資産合計	18,601,140	19,380,465

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2 1,305,513	2 1,205,824
短期借入金	1,421,859	1,402,032
未払法人税等	109,837	183,921
賞与引当金	110,502	64,093
役員賞与引当金	10,610	7,370
その他	731,837	892,399
流動負債合計	3,690,159	3,755,641
固定負債		
長期借入金	997,716	877,868
退職給付引当金	348,702	280,636
役員退職慰労引当金	147,221	158,132
資産除去債務	54,237	54,652
その他	428,987	450,407
固定負債合計	1,976,863	1,821,695
負債合計	5,667,023	5,577,336
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,524,460	1,524,460
資本剰余金	2,524,305	2,530,171
利益剰余金	9,241,908	9,629,399
自己株式	740,988	705,710
株主資本合計	12,549,685	12,978,320
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	385,715	507,401
繰延ヘッジ損益	1,283	-
為替換算調整勘定	-	35,278
その他の包括利益累計額合計	384,431	542,679
少数株主持分	-	282,128
純資産合計	12,934,117	13,803,128
負債純資産合計	18,601,140	19,380,465

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	14,691,589	15,242,226
売上原価	11,320,828	11,759,335
売上総利益	3,370,761	3,482,890
販売費及び一般管理費	2,388,808	2,508,359
営業利益	981,952	974,531
営業外収益		
受取利息	37,964	38,028
受取配当金	43,613	45,444
持分法による投資利益	47,000	-
その他	15,411	23,286
営業外収益合計	143,989	106,760
営業外費用		
支払利息	26,500	20,716
匿名組合投資損失	16,270	-
持分法による投資損失	-	2,155
その他	6,623	2,248
営業外費用合計	49,394	25,120
経常利益	1,076,547	1,056,170
特別損失		
固定資産除却損	4,031	4,841
減損損失	9,125	-
投資有価証券償還損	-	5,455
投資有価証券評価損	81,454	2,438
その他	72	-
特別損失合計	94,684	12,735
税金等調整前四半期純利益	981,863	1,043,435
法人税、住民税及び事業税	317,788	343,027
法人税等調整額	106,658	48,598
法人税等合計	424,447	391,626
少数株主損益調整前四半期純利益	557,415	651,809
少数株主損失( )	-	3,107
四半期純利益	557,415	654,917

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	557,415	651,809
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	33,071	121,686
繰延ヘッジ損益	1,026	1,283
為替換算調整勘定	-	61,900
持分法適用会社に対する持分相当額	-	1,233
その他の包括利益合計	34,097	186,102
四半期包括利益	591,513	837,912
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	591,513	813,164
少数株主に係る四半期包括利益	-	24,747

【継続企業の前提に関する事項】

当第3四半期連結会計期間(自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、新たに設立したFuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd.を連結の範囲に含めております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、当社の連結子会社であるユニテックフーズ(株)が株式を取得したUnitec Is Co.,Ltd.を持分法適用の範囲に含めております。

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。なお、当該変更による、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

次の関係会社について、金融機関からの借入れに対し債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
太平洋製糖(株)	685,333千円	569,333千円
南栄糖業(株)	116,564千円	116,564千円

2 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形	17,674千円	19,605千円
支払手形	21,806千円	

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
減価償却費	102,788千円	123,279千円
のれんの償却額	80,991千円	80,991千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月20日 取締役会	普通株式	321,231	12.00	平成23年3月31日	平成23年6月3日	利益剰余金

(注) 普通配当 10.00円 記念配当 2.00円

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
 該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月18日 取締役会	普通株式	267,426	10.00	平成24年3月31日	平成24年6月1日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成 23年 4月 1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	精糖事業	機能性素材 事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,050,018	4,182,554	459,017	14,691,589		14,691,589
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10,112	578	832	11,523	11,523	
計	10,060,130	4,183,132	459,850	14,703,113	11,523	14,691,589
セグメント利益	1,097,587	23,844	395,975	1,517,407	535,455	981,952

(注) 1 セグメント利益の調整額535,455千円は、報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門及び研究開発室に係る一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成 24年 4月 1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	精糖事業	機能性素材 事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,113,539	4,674,745	453,941	15,242,226		15,242,226
セグメント間の内部売上高 又は振替高	9,966	1,941	832	12,740	12,740	
計	10,123,506	4,676,687	454,773	15,254,967	12,740	15,242,226
セグメント利益	1,066,520	50,191	392,130	1,508,842	534,311	974,531

(注) 1 セグメント利益の調整額534,311千円は、報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門及び研究開発室に係る一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。



(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	20.84円	24.41円
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	557,415	654,917
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	557,415	654,917
普通株式の期中平均株式数(千株)	26,748	26,828

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

多額な資金の借入

連結子会社でありますFuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd.は、平成25年1月28日開催の同社取締役会において、金融機関より設備投資(工場建設)資金の借入を以下のとおり行うことを決議いたしました。

- |            |                                 |
|------------|---------------------------------|
| (1)資金用途    | 設備投資(工場建設)資金                    |
| (2)借入先金融機関 | みずほコーポレート銀行                     |
| (3)借入金額    | 340百万円(約10億円)                   |
| (4)利率      | 変動金利                            |
| (5)借入実施時期  | 平成25年2月より上記金額を複数回に分割して借入する予定    |
| (6)その他     | 当社は、当該借入に対して、持分相当額(55%)の保証を行う予定 |

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月5日

フジ日本精糖株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 羽 鳥 良 彰

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山 澄 直 史

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているフジ日本精糖株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、フジ日本精糖株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。